

平成27年度事業報告
平成27年4月1日から平成28年3月31日
(ふじみ野市シルバー人材センター)

I 概況

わが国は、少子高齢化が急速に進む中、労働力人口においては急速に減少することが見込まれています。また、経済情勢は、景気回復に向け、デフレから脱却し持続的な成長を目指して、様々な施策が講じられていますが、個人消費の伸びも鈍く、依然として不安定な状況であります。今後益々、高齢者が元気に活躍することが求められ、シルバー人材センターの役割は重要になっております。

シルバー人材センター事業においては、高齢者が多様な就業機会の確保と地域社会における就労・社会参加支援のための環境整備の一つとして、一般労働者派遣事業を推進することとなりました。

そのような中、当センター事業実績においては、平成22年度の5億3千万円をピークに前年割れが続いておりましたが、平成27年度は、前年比102.6%と前年度を上回ることができました。実績総額は、465,297,212円(請負事業450,692,314円、一般労働者派遣事業14,604,898円)となりました。また、会員数においても3月末現在1,005人となり前年比18人の増となりました。

前年度より検討してきました富士見市及び三芳町シルバー人材センターとの広域合併について、2市1町シルバー人材センターにより合併準備委員会を設置し、協議を重ね平成28年4月1日の合併に向けて準備を進めてきました。この合併は、手続上吸収合併とし、ふじみ野市が存続団体、富士見市及び三芳町が消滅団体となりました。

資産の額、事業実績や会員数等差異がありましたが、あくまでも会員の権利義務や事務局職員については、対等の立場で合併することを基本とし合併の準備を進めてきました。

広域化を図ることにより、会員数が増加するとともに多様な人材が集まり新たな職種の開発や、これまで単一のセンターでは受注が困難であった大規模受注への対応が可能となります。また、就業範囲も広がり、会員の希望する職種に就業できる可能性が向上します。さらに、組織を一元化し、効率的な運営を目指すことにより予算の有効活用が図られることとなります。

合併という目標に向かって進めてきた1年でしたが、今後のセンター運営の大きな転機となる年でした。

II 事業実施報告

1 2市1町（ふじみ野市・富士見市・三芳町）シルバー人材センターの広域合併を進める

合併準備委員会を各センター5人、各行政1人及び埼玉県シルバー人材センター連合1人の構成により合計10回開催しました。合併方式等重要事項を検討決定し、その後各理事会において確認決定し、1つ1つ進めてきました。また事務局においても事務局部会を設置し、運営についての確認作業を行いました。

合併準備だよりを3回発行し、また、シルバーふじみ野により会員への周知を図りました。

合併を進めるにあたり、ふじみ野市をはじめ関係団体等の深いご理解とご協力なしには進められませんでした。日頃より行政および関係団体との関係構築の重要性を改めて認識させられました。

2 普及啓発の促進

新聞折込みを1回、チラシの全戸配布を3回行い、積極的にPR活動を実施しました。入会説明会は毎月2回開催し、男性102人、女性51人合計153人が新たに会員となりました。

福岡中央公園で開催された産業まつりに参加し、会員入会案内及び仕事募集のためにチラシを配布しました。また、東久保中央公園で開催された環境フェアでは、家具等リサイクル事業の紹介と併せてセンターPRを実施しました。

3 就業機会の開拓

チラシの全戸配布等によりセンター事業を積極的に紹介し、一般労働者派遣事業をセンターが実施していることの周知にも努めました。請負にはなじまない仕事については、派遣事業の活用を積極的に進め、13事業所と派遣契約することができました。また、ふじみ野市と2件の派遣契約ができました。

営業職専門の職員により地域の仕事情報収集に努め積極的に事業所等訪問しました。また、新規にオープン予定のスーパーには早くからセンターの情報を提供し、契約することができました。契約金額では、前年比102%を超えることができました。

4 安全な就業意識の啓発

全国的にも重篤な事故につながりやすい植木手入れや草刈り作業等を中心に、安全巡回を5回実施しました。また、継続的な仕事をしている作業も巡回を実施しました。不安全な状態を発見した場合、その場で注意をすることもありましたが、安全就業義務違反者取扱基準による「警告書」を発するものではありませんでした。

しかし、傷害事故が11件発生し、そのうち転倒によるものが8件で、いずれも不注意によるものでした。賠償事故は7件発生しました。いずれも前年度より件数が増えています。傷害事故の中には治療に数カ月かかり、センターを退会せざるを得なくなるものもありました。

会員一人一人の安全に対する意識の啓発を徹底しなければなりません。

5 適正な就業の推進

就業先ごとに設置している仕事別グループの中には、会員同士のトラブルや仕事の手順の再確認などのために随時会議を開催し、積極的に会員同士の意思疎通を図っているグループもあります。全就業会員が集まれるのが夜間の場合でも、必要な場合は集まりを持って会員同士の打合せを重ねているグループもあります。いずれも、責任者の知恵により有効な会議となっていますが、一人一人の仕事に対する意識の向上が欠かせません。

就業情報を毎週金曜日に更新しています。年度の後半からは20数件を越す情報を事務所の掲示やホームページでお知らせしていますが、会員の就業に結び付かず同じ就業募集がしばらく続き、結局就業会員が見つからず契約に結び付かないケースもありました。

就業の基準に関する要綱による就業交代は2回実施しました。受付等の業務には応募が多くなる状況は変わらず、対策を検討することが必要となっています。

6 組織体制の充実

福祉厚生員会を中心に会員作品展やグランドゴルフ大会を開催しました。作品展は、定時総会、臨時総会時に大井中央公民館で、また、市役所ロビーで多くの市民の方に見ていただけるよう会員の創意工夫により開催することができました。

元気に歌おうと新たなサークル、歌おう会が発足しました。富士見市で開催されたシルバークフェスティバルにゲストとして参加し、今後は施設等訪問するなどボランティア活動も行う予定です。

地域班の活動は班によって大きな違いがあり、定例的に会議を開催し着実に活動している班もあります。しかし、班長等役員が不在で実質的には活動が停止している班もあります。そこで、モデル班を設置し班活動の可能性を広げようという総務委員会の呼びかけに、2つの班が応じました。高尾山登山を班独自で実施するなど役員が中心となって知恵を絞っています。

7 財政基盤の確立

センターの予算は公益法人として、単年度収支が黒字になった場合、翌年度にその黒字分を消化する、若しくは計画的な積み立て（単なる運営資金の積み立てはできない。）をする、赤字が出た場合の補てんはない、いわゆる収支相称が求められています。

今年度は、ほぼ収支相称に近づけることができました。今後も経費の節約を進め、予算の有効活用を進めなければなりません。